令和７年度　第３回学校運営協議会

令和８年２月２７日（金）
９：３０～１１：００

【出席者】
・委員（14 名中　９名出席）
　吉利会長　宇野委員　植田副会長　高田委員　中村委員　西山委員
　星川委員　渡邊委員　木村校長
・教職員（計 11 名出席）

１　開会

あいさつ　【会長】

３ 回目の会議ということで、今年度のまとめだけでなくて来年度に向けて様々なご意見をいただけるものと思います。本日もどうぞよろしくお願いいたします。

２　生涯学習の取組について

（１）生涯学習の取組について　【柿元】

・県の研究指定を受けて生涯学習、中でも文化芸術部門の取組を進めている。
・研究を進めるにあたり、①何のために生涯学習をするのか　②生涯学習の充実に向けてどのように取り組むか、またその方法を検討した。
・経験が少なく、自分の意志表出ができにくい児童生徒が多い実態がある。きっかけ作りやつながり作りなどの仕掛けが必要ではないか。
・校内の取組についての紹介。
「岡山インクルーシブフェスティバルのタペストリー制作」
　ありがとうファームのアーティストさん達や学部みんなでの作品作りの経験。児童生徒それぞれに合わせたいろいろな素材や道具を使用。(『つながり』を大切にした取組)
「文化祭でのファッションショー」
　岡山南高等学校の生徒とのつながり、校内のショーに出演する見せ場を通してのつながり。
「肢体不自由の学校４校で行ったオンライン交流でのゲーム対戦」
「県立美術館より講師を招いて染織のワークショップ」
「就実大学の先生が作成した音源やライトを自由に操作できるスイッチを活用した光と音のコンサート」
「地域の方とのとうもろこしの栽培」
「琉球音楽の演奏家によるコンサート」
　音楽を聴くだけでなく、生徒もサンシンや太鼓の演奏に参加。
・「つながり・見せ場・きっかけづくり」といったキーワードをもとに
『楽しいと思えるきっかけ作り』→『仲間や地域、社会とつながっていくつながり作り』→『やりがいや自己肯定感、コミュニティの形成』など豊かな生活につながっていくということ

が整理された。

・課題としては、主体的に取り組むために必要なこと、在学中に経験したことを卒業後につなげていくために必要なこと、小中高の学部間の関連や系統性などが挙げられる。

（２）グループ協議

協議題：「私の生涯学習について」

ご自身が取り組まれている生涯学習について紹介し合い、それに取り組むことで得られることについて語り合いたい。また、音楽や美術（図画工作）の授業での学習成果を発表するような活動（イベント、発表できる場、作品の二次利用等）のアイディアやこんな人材がいるなどの情報をいただきたい。

※文部科学省 HP より 「生涯学習」とは、一般には人々が生涯に行うあらゆる学習、すなわち、学校教育、家庭教育、社会教育、文化活動、スポーツ活動、レクリエーション活動、ボランティア活動、企業内教育、趣味など様々な場や機会において行う学習の意味で用いられます。

【１グループ】

＜生涯学習に取り組むことで得られること＞

・最近、食べたものの記録を始めた。メモしておくのもいいが、昔はまっていたカメラを思い出して、写真で残すことにした。最近、スマホはボタンをぽちっと押すだけで写真が撮れるので便利。

・スキー、書道など。近年は家族でスキーに行った。車椅子の娘もチェアスキーを借りてみんなで楽しんだ。１つの空間で家族が同じスポーツができるのはいい。

・生涯学習は、人間観察。子育てをしていく上で、アンガーマネジメントに興味をもって勉強したが、腑に落ちなかった。他人が怒るときに、なぜその行動や思考に至ったかを人間観察をしていくようにした。

＜アイディアについて＞

・本校の児童生徒もスイッチなどを使用して写真を撮れるのではないか。それを彼・彼女らが見ている世界として記録に残していくのもおもしろいのではないか。写真集とか。媒体・デジタル等でも。

最近はあえてアナログにこだわっている。手紙をペンで書いて送ってみようとか。

写真も印刷して彼らの生きた証として写真集にしている。

・保護者の方や地域の方で技術をもっている人はたくさんいる。先生ばかりが重荷を背負わずに、アンケート等を取って、今この学校に関わっている保護者や一番身近な人たちと繋がっていける仕組みを学校で作っていって、授業等で活用するのはどうか。

【２グループ】

＜生涯学習に取り組むことで得られること＞

・何を学んでいくか決めることに時間がかかるので、いろいろな体験をしてみる。行ってみる、触れ合うなど。その中で見つけるものがあり、きっかけ作りとなる。

・読書をすることで、別の世界が見える。

・「またがんばろう」と気分転換になる。
・漫画を読んだり、ゲームをしたりすることで、探究しようとする力、思考力が育つ。それが、納得感や満足感につながる。
・おいしそうと思ったら、食べてみる。仲良くなりたいと思う人がいたら話し掛けてみる。やってみたいことに一歩踏み出す気持ちが育つことが生涯学習だと思っている。また、やってみた経験の積み重ね。その中で幸せ、充実感、達成感などが得られる。
・音楽が好き。いろいろな楽器を演奏してみる。充実感。
・料理が好きなので、無心になれる。そしてその後、おいしいご飯も食べられる。
・趣味＝仕事。生きている中で仕事の時間が長い。仕事を楽しむ＝生涯学習。
＜アイディアについて＞
・協議時間がありませんでした。
＜②グループのまとめ＞
・別の世界が見えたり、人とのつながりが広がったりする中で、幸福感、達成感、充実感などを得られることができる。
・ポイントが２つある。①学びたいことを見つけるのが大変。いろんな体験をしてみよう。②生涯学習と考えるとき、余暇の方によりがち。社会に出ると、仕事とプライベートのバランスが大切。
・発表する場としては、HP、SNS、公民館など。障害者雇用が増えていて、研修などの集まりも増えている。研修の場のロビーなどで展示コーナーを作ってもらう。他県では、ホテルのロビーに絵の展示をしたり、エレベーターの中で展示をしたりしているところもある。シャッター商店街の一部店舗を借りて、支援学校持ち回りで展示するのはどうか。

【３グループ】
＜生涯学習に取り組むことで得られること＞
・リフレッシュできる。
・自信やチャレンジする気持ち。
・考えが深まる⇒様々な人とつながる中で、様々な考えを得られる。
＜アイディアについて＞
〇協力を得る。
・企業や福祉事業所とつながる。
デザインゴールズ（一宮）の福祉事業所…障害者の絵をカルタにしている。県の補助金を用いている。
・今ある場所、イベントに参画する。
西側緑道公園での音楽イベント　地域の展示場所（旭川荘アートギャラリー等）
〇商品化
・制作したアートを商品のデザインとして活用する。（株）中野コロタイプ印刷関連など。
岡山支援らしさ、地元らしさのある商品が自己の価値を可視化することや賃金につながればよい。

３　令和７年度の取組と次年度の方向性について

（１）自立活動推進チームの取組について　　【多賀】

・自立活動は全ての特別支援学校、小学校や中学校の特別支援学級でも行われている。
障害等に起因する困難さのために、学習するための基盤が整っていない状態。基盤が整うことで国語や算数などの教科の学びが、積み上げやすくなる。

・自立活動推進チームが自立活動の指導充実のために取り組んだことの中で、特に力を入れた巡回・抽出指導と研修について報告。

＜巡回指導＞

主に年度当初に行い、児童生徒の実態把握を行ったり、担任の指導方針や内容に関する相談に対し助言を行ったりした。

＜抽出指導＞

担任から要請や相談等のあった児童生徒の自立活動の指導について、半期などの一定期間継続して自立活動推進チームの教員が指導を行った。

・自立活動の目標や担任から聞き取った児童生徒が困っていること等をもとに、指導内容を提案・実施し、評価を伝える。推進チームの教員がいなくても担任が指導できるようにし、先生方の専門性の向上を意識して取り組んでいる。

・学校全体の専門性向上を目指し、今年度から新たに始めたのが、自立活動希望者研修。
自立活動希望者研修は、肢体不自由教育の経験が浅い先生方の専門性向上をねらいとし、基礎的な内容を中心に行った。

・課題と次年度に取組たいこと

①先生方の専門性の向上に向けて、希望者研修やそれ以外の研修をより充実させる。内容や時期、方法等の改善。

②「自立活動目標検討会」をスムーズに行うためのファシリテーター研修の充実。

（２）ICT 活用推進チームの取組について　　【米重】

・今年度の ICT 活用推進チームは２名体制。

・主な活動内容は、「ICT 機器を活用した支援の提案」「授業支援」「ICT 機器の管理」「教職員向けの ICT 研修」

・３つの重点目標

① 「使う」から「教科指導で活用する」段階へ進めること

② 卒業後を見据え、保護者や進路先への共有体制を整えること

③ 特定の教員だけでなく全教職員が活用し、校内で円滑に引き継げる体制をつくること

取組①：教科指導への広がり（外部連携の強化）

「大学との連携（with 就実大学)」：動きに反応して音を奏でる装置「KAGURA」を活用

「主体性を引き出す機器活用」： 職業家庭の授業でのミキサー、ミシン、ハサミなどのスイッチ

「他校との交流（with 高島中学校・岡山東支援学校・早島支援学校）」：「e ボッチャ」を通じた交流や体育の授業

取組②：生涯学習への広がりと移行支援

「コンテストへの挑戦」： 視線入力やデジタルアート、作曲作品をコンテストに応募

「オンライン対戦交流の拡大」： 県内 5 校の肢体不自由部門がある学校を結んだオンライン対戦

「校外支援・移行支援（特別支援教育エキスパート派遣事業）」： 本校のエキスパート教員にチーム 2 名も同行し、計 9 回の校外訪問。学校への学びを途切れさせないよう、オンライン交流も含めた「仕組みづくり」

・来年度に向けて、「誰でも使える ICT」としてさらに活用を広め、児童生徒一人一人が自分に合った手段で「できること」が増えるよう、校内の専門性向上を目指す。

（3）センター的機能の実績について　　【中山】

・特別支援学校のセンター的機能…地域における特別支援教育の推進のため 幼稚園小学校中学校高等学校などに対して専門的な知識や経験に基づいた支援を提供する役割。

・今年度の特別支援教育エキスパート派遣事業の実績

「ICT 活用推進チーム教員と ICT のエキスパートによる肢体不自由児者またその支援者の方に向けた支援研修」14 件。（卒業生も通う事業所や他の特別支援学校と視線入力の設定、活用の支援施設の職員の方や大学の教員学生等を対象とした研修などが含む。）

「地域の小学校からの発達障害のある児童の指導に関する相談対応」3 件。

「高等学校の巡回訪問」4 件。（個別の教育支援計画の活用方法や気になる生徒についての相談）

「交流相手の生徒担任向けの授業」1 件。（特別支援学校について、また様々な障害についての理解等を事前に伝えるための授業）

（4）寄宿舎の取組について　　【中西ま】

・今年度のテーマ

『自分らしい豊かな生活を目指して「やってみる」「考える」「継続する」「変化する」』

取組①寄宿舎農園

食育の一環として 1 年を通して様々な野菜を栽培し野菜を使った夕食やおやつ作り

黄ニラ大使の植田さんとの交流

取組②ボッチャを通した交流

グロップサンセリテワールド AC のトップアスリートの方々との交流

同窓会会長宇野さん、竜ノ口寮の皆さんとの交流

自分で目標を立てたり主体的に練習に取り組んだりする姿

取組③ 2 月 11 日に開催された岡山インクルーシブアワードへの挑戦

舎生から「やってみたい」と声が上がりパフォーマンス部門に応募

最終選考にチャレンジし、最優秀賞に選ばれた。

舎生達にとって大きな成長につながった。日々の生活の中でも前向きな姿が増えている。

（５）学校評価アンケートの分析　　【栗原】

・昨年度の保護者アンケートで、「分からない」という回答が非常に多かった。

原因について３つの考察

① アンケートの項目の文章表記が分かりにくいのではないか

② 保護者にとって見えにくいからではないか

③ 寄宿舎教育について寄宿舎生以外の保護者も回答するようにしていたため、寄宿舎生以外の保護者にとっては分からないのではないか

・アンケートの文章表記の改善

寄宿舎教育は寄宿舎生の保護者のみの回答とし、他の文章表記や発信方法についても見直しを行った。

・アンケートの回収率について

保護者アンケートの回収率は全校で 90%、教職員アンケートの回収率は 98%。

・今年度の成果と課題

＜成果＞

「通信や SNS からの教育活動や情報の発信」の項目では、保護者の肯定的評価が昨年度から 24%上がっている。Facebook と Instagram の連動による情報発信方法の改善に取り組んだことによると推察。

＜課題＞

「地域資源を生かした教育活動」の項目で、保護者の肯定的評価が 77%と低い結果。

地域資源を活用した教育活動は現在、本校で小・中・高等部ともにたくさん行われているが、このことが保護者に十分情報共有されていないということが課題であり、今後さらなる情報発信が必要である。

「ニーズを踏まえた進路情報の提供」の肯定的評価も他の項目に比べて低い結果。

児童生徒一人一人のニーズの把握を丁寧に行い、それに応じた進路情報を提供することが課題。懇談等で卒業後の姿について保護者とイメージを共有していくこと、さらに進路に関する情報を随時発信していくことが必要であると考える。

・次年度に向けて

「卒業後につなげていく」

児童生徒一人一人に応じた教育活動や ICT 機器の効果的な活用等の強みを生かして、学校での取組や支援方法を卒業後につなげる。

「地域資源の活用」

地域交流や地域資源や人材を生かした教育活動を計画的に行い、SNS 等を通じて発信していく。

「ニーズに応じた情報提供」

実態把握をもとに、本人や保護者からのニーズを聞き取り、それに応じた福祉・医療・進路等の情報提供を適切に行っていく。

4　令和８年度学校経営計画の方向性について　　【木村校長】

・生涯学習の充実をテーマに２年間の研究に取り組んでいる。文化芸術活動は自己表現の喜びを味わうとともに 他者や社会とつながる大切な手段の一つだと考えている。学校での学びが卒業後の生活、また地域での活動へとつながって生涯にわたり文化芸術に親しむ基盤となるよう研究を進めていきたい。令和８年度は２年目。来年度も生涯学習の視点を大切に地域資源を生かした学習のさらなる充実を図っていきたい。

・自立活動推進チーム・ICT 活用推進チームも成果を上げている。今後もその組織を大切にしながら教育活動に取り組んでいきたい。

・学校評価アンケートについて分析結果をも報告。保護者の方からは肯定的な意見を多数いただいているが、まだまだ改善できるところがある。次年度に向けて考えていきたいこととして卒業後につなげるための取組また地域資源の利用、ニーズに応じた情報共有がある。これらに関する取組を令和８年度の学校経営計画に取り入れていきたい。

・協議会を設置して、委員の皆様から様々な視点から建設的な意見をいただいた。それらを生かして 来年度に向けて子ども達の豊かな学びが実現できるように取り組んでいきたい。
引き続きご協力をよろしくお願いいたします。

5　その他

・来年度の学校運営協議会について
第１回目：令和８年５月末または６月頭頃
現時点での出欠を依頼。次年度に再度出欠の確認予定。

6　閉　会　　【植田副会長】

・支援学校の皆さんの活動を Facebook Instagram で拝見している。子ども達の活動や学校の取組を楽しませていただいている。学校や先生方、地元の企業の皆さんが協力してくださっているのを感じ、子ども達の成長を感じさせていただいている。また、各チームの先生方の取組も本当に先進的で工夫されており、素晴らしい。引き続き、一緒に関わっていけたらと思う。よろしくお願いいたします。

この端末は
学習系ネットワークに
つながっています

岡山支援学校
学校運営協議会
得られること
アイデア
人材企業
和の生涯学習
アイデア
〈得られること〉
〈アイデア〉